

NAIS Journal Vol.15

発刊に際して

一般社団法人日本応用情報学会会長

高 弘昇

京都情報大学院大学 教授



21世紀のデジタル世界のビジネス環境に求められるIT関連技術は急速に変化し、あらゆる分野において適用・応用されています。特にコンピュータ科学のソフトウェア技術として人工知能（Artificial Intelligence; AI）はロボット、画像認識・理解、自然言語処理などの領域と互いに密接に関連しており産業界に大きく貢献しながらビジネス環境に影響を及ぼしています。

2020年、世界の経済に莫大な損害をもたらしたコロナ環境においてはビジネス界のテレワーク、教育分野でのe-learningなどにIT関連技術が適用され、効果を生み出していることからその関連ビジネスも大きく注目されています。また、急速に変化していくビジネス環境に沿って第4次産業革命も本格的に展開し始め、一層激しい競争環境を生み出しています。このようなビジネス競争環境において、競争優位に立つための関連人材の確保、関連IT技術の確保、関連ビジネス情報の獲得などが必要になっている企業はその対応に追われています。

各分野で適用・応用されていくIT関連技術の発展のため、一般社団法人日本応用情報学会（Nippon Applied Informatics Society; NAIS）は日本国内で専門誌NAIS Journalの発行、IT関連研究会・セミナー開催などの多様な活動展開を通じて応用情報技術の普及に貢献するだけでなく、実学志向的な実践団体としての産学学会としてその役割を果たしてきました。それとともに、日本応用情報学会は、実務系団体と緊密な連携を持ちながらデータ分析を中心にしたデータサイエンス（Data Science）関連などの技術開発活動を行い、グローバルビジネス環境において企業が必要とする実学志向的な人材育成に力を入れてきました。また、情報技術を取り巻く実学志向的なビジネス環境において役に立つ有用な情報を関係研究者、産業界の技術者などに発信すると同時に、産学専門家が研究開発し実装した成果物を関係する多くの人々に示す場を提供するため、専門誌であるNAIS Journalを産業界に積極的により幅広くオープン化してきました。特に、NAIS Journalはこのような趣旨に沿って様々なIT分野で活躍し、貢献している産学研究者たちの研究成果も集めて発刊しています。

日本応用情報学会はこれからも各分野における実学志向的な応用情報技術に関わる多様な活動の内容及び成果物を多くの関係者に産学学会としてウェブサイトとNAIS Journalを通じて発信し、効率的、有効的に共有していきます。また、研究・実践活動で発生しうる様々な応用情報技術課題に対応可能な関連情報を積極的に発信し続けていきたいと考えています。

今後も日本応用情報学会はIT及び関連技術によって生み出される応用情報技術により、急速に変わり続ける厳しいビジネス環境において企業が競争力を身に付け成長できるようにデータサイエンス、人工知能、第4次産業革命に関わる関連人材育成、応用情報システムの研究、開発及び実践に積極的に貢献していきたいと考えております。